

「大学入学共通テスト問題作成方針」公表

河合塾

2019/6/10

このほど大学入試センターは、2021年1月に実施する大学入学共通テスト（以下、共通テスト）の問題作成方針と出題教科・科目・配点を公表した。詳細は以下の通りである。

■最初の大学入学共通テストは2021年1月16・17日に実施

今回の公表に先立ち、今月初めに文部科学省から2021年度の「大学入学共通テスト実施大綱」が公表された。この中で初年度の共通テストの出題教科・科目や試験実施日は2021年1月16・17日（土・日）であることなどが判明していた。今回、大学入試センターからの発表で、共通テストの配点のほか問題作成の方針などが明らかになった。

問題作成の基本的考え方として、改めて示されたのは次の3点である。

共通テストでは、センター試験で蓄積してきた良問を受け継ぎつつ、高校教育を通じて大学教育の入口段階までにどのような力を身に付けていることが求められるのかを、より明確にしながら問題を作成するとし、両試験が全く性質の異なる別の試験ではないことが明示された。

また、重視する点として、高等学校指導要領に挙げられた育成を目指す資質・能力を踏まえ、知識の理解の質を問う問題や、思考力、判断力、表現力を発揮して解くことが求められる問題を重視し、出題教科・科目において問いたい思考力、判断力、表現力を明確にした上で問題を作成することが挙げられた。さらに生徒の学習場面や、社会・日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面、資料やデータ等を基に考察する場面など、学習過程を意識した問題の場面設定を重視することも示された。

■国語・数学①で記述式を導入

次に教科ごとの出題方法等についてみていく。共通テストの目玉の一つである記述式は、当初は国語と数学①で導入される。

国語はマーク式問題とは別に記述式問題の大問が出題される。記述式問題は小問3問で構成され、解答字数は最も長い小問で80～120字程度を上限として、他の2つの小問はそれよりも短い字数を上限として設定される。記述式問題の成績は大問全体と小問ごとの段階表示で行われる。これにより国語の成績はマーク式の200点と記述式の段階表示の2種類となる。マーク式の大問数とその配点は、近代以降の文章2問100点、古文1問50点、漢文1問50点で、センター試験同様である。記述式問題の導入により、国語の試験時間はセンター試験時から20分延長され100分となる。

数学の記述式問題は数学①（数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学A）のうち、数学Ⅰの内容に関わる問題で設定される。国語とは異なりマーク式問題と混在させた形で数式等を記述する小問3問が出題される。記述式問題の導入により、数学①の試験時間もセンター試験時から10分延長され70分となる。なお、数学①の配点はマーク式、記述式を合わせて100点である。

なお、理科については、理科②で出題されていた選択問題が共通テストからは出題されないこととなった。

■英語の「筆記」は「リーディング」に改称、配点は「リスニング」と均等に

英語は「リーディング」と「リスニング」で構成される。センター試験の「筆記」で出題されていた発音、アクセント、語句整序などを単独で問う問題は出題されないこととなった。これに伴い「筆記」は「リーディング」に名称が変更される。また、「リーディング」と「リスニング」の配点比は均等（各100点）となり、センター試験時の筆記（200点）とリスニング（50点）から大きく変更される。ただし、「どの技能にどの程度の比重を置くかは各大学の判断による」とされ、今後、各大学がどのように扱うかが注目される。

【2021 年度大学入学共通テスト 出題教科・科目・配点】

教科	出題科目	科目選択の方法	解答方法	試験時間（配点）
国語	「国語」		マーク式及び記述式 (記述式は近代以降の文章のみ)	100分 (マーク式問題200点及び記述式問題の段階表示)
地理 歴史	「世界史A」「世界史B」 「日本史A」「日本史B」 「地理A」「地理B」	出題科目10科目のうち最大2科目選択解答 ただし、同一名称を含む科目の組合せは不可	マーク式	1科目選択60分(100点) 2科目選択130分(解答時間120分)(200点)
公民	「現代社会」「倫理」 「政治・経済」 「倫理政治・経済」			
数学	① 「数学Ⅰ」 「数学Ⅰ・数学A」	出題科目2科目のうち1科目選択解答	マーク式及び記述式 (記述式は数学Ⅰの内容に関わる問題のみ)	70分 (100点(記述式問題を含む))
	② 「数学Ⅱ」 「数学Ⅱ・数学B」 「簿記・会計」 「情報関係基礎」	出題科目4科目のうち1科目選択解答	マーク式	60分(100点)
理科	① 「物理基礎」「化学基礎」 「生物基礎」「地学基礎」	下記A～Dの選択方法により科目を選択し解答 A：理科①から2科目 B：理科②から1科目 C：理科①から2科目+理科②から1科目 D：理科②から2科目	マーク式	理科① 2科目選択60分(100点) 理科② 1科目選択60分(100点) 2科目選択130分(解答時間120分)(200点)
	② 「物理」 「化学」 「生物」 「地学」			
外国語	「英語」 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」「韓国語」	出題科目5科目のうち1科目選択解答	マーク式	英語 リーディング80分(100点) リスニング60分(解答時間30分)(100点) その他外国語 80分(200点)

※大学入試センター資料より

出題の難易度では、「リーディング」「リスニング」ともにCEFRでA1～B1レベルに相当する問題が作成される。また、実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況の設定を重視するとしている。

「リスニング」は音声の読み上げ回数を、現在のセンター試験の2回読みから、1回読みと2回読みの両方の問題を含む構成で実施することとなった。

そのほか、判明した事項から主なものを挙げると、過年度卒業者用の別問題は作成されない。高等学校学習指導要領に基づく学習範囲の中から出題されるという点については、前年のセンター試験と変更ないためである。なお、出題の範囲としては、教科書等で扱われていない資料等も扱う場合があると予告されている。これは、高等学校の通常の授業を通じて身に付けた知識の理解や思考力等を新たな場面でも発揮できるかを問うためとしている。また、マーク式の新たな出題形式として、いわゆる連動型の問題（連続する複数の問いにおいて、前問の答えとその後の問いの答えを組み合わせることで解答させ、正答となる組み合わせが複数ある形式）を出題する可能性があることも示された。

※CEFR：ヨーロッパ言語共通参照枠。外国語学習者の習得状況を示す際に用いられるガイドラインで、外国語の習熟度をA1からA2、B1、B2、C1、最高レベルのC2までの6段階に分けて、語学コミュニケーション能力のレベルを示す国際標準規格。

■大学への成績提供

大学に提供される個人別成績データは、これまで通りの得点合計、科目別得点に加え、新たに国語の記述式問題の全体および小問ごとの段階表示が提供される。また、参考情報として科目ごとの9段階の段階表示と国語の大問別得点も提供される。

成績提供の日程も予定として示された。私立大には2021年2月9日（火）から、国公立大には2021年2月11日（木）からとしている。また、国公立大の共通テストを課す総合型選抜および学校推薦型選抜については、2021年2月10日（水）からとしている。いずれもセンター試験の成績提供日から1週間後倒しとなる。